



# 「かなり危険、地位協定上許されぬ」 日本共産党・赤嶺議員に岡田外相が答弁



日本共産党の赤嶺政賢衆院議員は2月25日、衆院予算委員会分科会で米軍機による低空飛行の問題で質問。鹿児島県の屋久島空港で米軍機が低空で接近するロー・アプローチ訓練を繰り返している問題では、岡田克也外相から、「かなり危険を伴い、日米地位協定上許容されていない」との答弁を引き出しました。以下、質問の要旨です。



赤嶺政賢ホームページ  
携帯ならコチラから

## 「4歳と2歳の孫が、怖いと言って抱きつこうとする」 屋久島空港で米軍機が闇夜に特殊訓練。政府は明確に拒否を

赤嶺議員は、「遠くからすごい音を立てて飛んでくる。4歳と2歳の孫がいるが、音がすると怖いと言って抱きついてくる」という屋久島住民の証言を紹介。「鹿児島県内で嘉手納基地の特殊作戦機が闇夜に紛れて訓練をしている。本土の沖縄化が始まっている」とのべ、ロー・アプローチ訓練の中止を求めました。

●赤嶺議員 屋久島空港の閉鎖後、米軍機が突然轟音を響かせながら低空で進入し飛び去るロー・アプローチが繰り返されている。(米側は日米地位協定の範囲内と主張するが) 日本政府として明確に「これは認められない」と言うべき。

## 鹿児島県内各地で日米合意違反の低空飛行 「改めて米側に事実関係を照会する」(岡田外相)

赤嶺議員は、2006年ごろから、薩摩半島で、米軍機による低空飛行がたびたび確認されている問題についても質問しました。

外務省側は「米側が基準内と回答している」としましたが、日本共産党の松崎真琴鹿児島県議による聞き取り調査や専門家の協力を得た飛行高度計算などから、米軍機が航空法が定める最低安全

○岡田外務大臣 (2006年から09年までの4年間に計15回の飛行を把握しているとし、)かなり危険も伴うし、基本的に日米地位協定上許容されていないと考え、日米間で協議中。

●赤嶺議員 この間、徳之島に行ってきた。鹿児島県の中では、既に、低空飛行訓練やロー・アプローチなど、嘉手納基地の特殊作戦機が闇夜に紛れて訓練をしている。移転問題が起こる前から、本土の沖縄化が始まっていると本当に感じる。米軍基地は本土に移転ではなく、沖縄そのものから減らしていく日米交渉が求められる。

赤嶺議員は知事要請後の昨年12月にも低空飛行が目撃されていることを指摘。岡田外務大臣は、改めて米側に事実関係を照会すると約束しました。

○武正外務副大臣 米側に照会したところ、米軍機ではあるが、米側としては日米合同委員会合意に定められた最低安全高度基準を守っていたと認識している旨の回答があった。

●赤嶺議員 目撃者と食い違いがある。飛行高度の調査をしている。航空法が定める最低安全高度以下で飛行していた疑いが極めて強い。99年1月の日米合意に違反する行為だ。去年7月、鹿児島県知事が外務省に低空飛行訓練の速やかな中止を求める要請をしたが、去年12月にも薩摩川内市で目撃された。これに対する回答が、基準を守っていたということなのか。

○岡田外務大臣 7月30日以降についてはアメリカ側の答えには含まれていないと思われる。7月30日以降のことについては、改めて米軍側に事実関係を照会したい。



南さつま市在住の諏訪勉さんが撮影した写真=2009年7月30日

高度以下で飛行していた疑いが極めて強いと指摘。鹿児島県知事が外務省に低空飛行訓練の速やかな中止を求める要請をしたことにも触れ、住宅地域上空での低空飛行の中止を求めました。